

多様な地域の実情に合った ITS の社会実装を考える

～現場の実情・事例から学ぶ 宮城県石巻市編～

〔ご報告〕

ITS Japanでは『第3期中期計画（2016～2020年度）』*の『多様な地域の実情に合ったITSの社会実装』の具体化に向けて、基礎自治体や地域ごとのITS推進団体等との連携強化を図りつつ、『現場を知る』ことを活動の重点に据え、地域の課題や先進的な取組み、事例について、現地訪問や関係者との意見交換を中心とした活動を進めています。

(※ITS Japan第3期中期計画 http://www.its-jp.org/katsudou2014/tabid_210/)

今回は宮城県石巻市を取り上げます。一般社団法人日本カーシェアリング協会では、東日本大震災時に自動車を失った地域住民に対して、全国から寄付を受けた車両を提供し、コミュニティで所有・共同利用と経費分担で運用する手作りの・草の根的カーシェアリングを実施しています。震災から7年、仮設団地で始まった活動は、復興公営住宅になった現在でも、そこに暮らす住民・高齢者などが、新たなコミュニティを形成して、自ら運用ルールを決める「コミュニティ・カーシェアリング」を継続しています。

去る2018年7月14日（土）、同協会の代表理事 吉澤武彦氏が実行委員会委員長を務めた、第2回となる『「コミュニティ・カーシェアリング」シンポジウムin石巻』が石巻市防災センターにて開催されました。このシンポジウムから、注目のトピックとしてベルギーのカーシェア事情についてご紹介するとともに、震災から7年経過後も活動を継続できているコミュニティカーシェアリングなどをご紹介します。なお、ITS Japanは、本シンポジウムに協力という形で参加しております。

【シンポジウムのチラシ】

■ベルギーのカーシェア事情

――「コミュニティカーシェアリングシンポジウムin石巻」Taxistop Angelo氏の講演より

- ・相乗りサービス「Cambio car-sharing（カンビオカーシェアリング）」では、40 の都市、1,100 台の車、33,000 人の利用者がいます。カーシェアはポジティブで、市内の駐車車両が減った（17,250 台相当）、空き地ができたのと同じ、駐車場構築コストの削減にもつながるなどの効果説明もありました。
- ・地域行政との協力による「The less mobile service（レスモバイルサービス）」があり、体に障害はないがしばしば社会的に孤立している人、月収などの条件をクリアした 37,000 人が会員（平均年齢は 80 歳）で、カーシェアが取組まれています。
- ・Olympus Mobility（オリンパスモビリティ）という公共交通、自転車シェア、カーシェア、EV 充電、駐車場、相乗り等を統合化する MasS（Mobility -as-a-Service）プラットフォームや、移民者主体の移動支

援と求職をマッチングする AaaS (Accessibility-as-a-Service) も簡単に紹介されました。

- ・ Mobihub (モビハブ) というシェアリングモビリティや複数の輸送手段、自転車駐輪場などを備えた地域の賑わい拠点という都市デザインのための新しいコンセプトに着手しているとの紹介がありました。

ベルギーでは、地域の交通手段として、カーシェアが定着するとともに地域コミュニティ形成の一助になっていること、自治体が主役となってNGO等のパートナーとの協業で推進し、若者や移民者への移動手段まで目配りした取り組みが興味深いものでした。石巻は、復興住宅における被災者のコミュニティ形成、高齢者の移動支援でカーシェアは機能しているものの、ボランティアドライバーの確保、今後の持続性確保という課題があります。その課題解決のために、若者の利用や中山間地での利用（実証実験を始めている）などの普及促進策を進めています。



【講演の様子】



【パネルディスカッションの様子】

第2回「コミュニティカーシェアリングシンポジウムin石巻」のテーマと登壇者

今回は、大都市圏以外の地域でカーシェアリングやライドシェアリングの形で、外出支援などを行うベルギー・ドイツの組織を招き、市民型・共助型モビリティの課題や発展に必要な要素について発表いただき、お互いの事例を共有しました。また後半では、会場からの質疑を元にパネルディスカッションが行われました。

【第1部 各地のコミュニティ・カーシェアリング】

モデレーター：ウィーン工科大学 交通研究所 柴山多佳児氏

- ・「ご近所カーシェアリングとその他革新的なカーシェアリング」
Autodelen.net Jeffrey Matthijs 氏
- ・「Taxistop による社会的かつ持続可能なシェアリングモビリティ」
Taxistop Angelo Meuleman 氏
- ・「エパースベルグ地域の公共カーシェアリング」
Carsharing in Landkreis Ebersberg Wilma Östreicher 氏(映像による紹介)
- ・石巻の「コミュニティ・カーシェアリング」
一般社団法人日本カーシェアリング協会 吉澤武彦 氏

【第2部 共助型モビリティの可能性と課題】

- ・コミュニティ・カーシェアリングの特徴と位置づけ
ウィーン工科大学 交通研究所 柴山多佳児氏
- ・わが国の地域公共交通の実状と共有型モビリティの課題
長岡技術科学大学 産学融合トップランナー養成センター 鳩山紀一郎氏
- ・パネルディスカッション：コミュニティ・カーシェアリングの役割と未来
モデレーター：東北大学 鈴木高宏氏
パネラー： Jeffrey Matthijs 氏、Angelo Meuleman 氏、鳩山氏、柴山氏、吉澤氏

■コミュニティカーシェアリング現場視察・吉野町復興公営住宅で意見交換

吉野町での復興公営住宅でカーシェアリングの利用車両・設備などの説明を受けた後、復興公営住宅（永住）でコミュニティを形成し、カーシェアを利用されている10名の方々と意見交換を実施しました。

- ・石巻のカーシェア会は7か所あり、全会員は205名で平均年齢73歳です。その1つである吉野町復興公営住宅の「吉野カーシェア会」は平成27年から23名でスタートし、現在は約40名が会員登録しています。
- ・運営のポイントは、コミュニティの中でルールと役割を決めて自分たちで運営すること。定期的に「お茶会（井戸端会）」を開催し、ルールを作り上げていきます。運営上のモットーは、できる人ができる範囲で行うことです（完璧さを求めない）。
- ・主な利用先は、病院、買い物など市内の移動がメインです。
- ・参加されている方々は、明るく、楽しいサークル活動という感じであり、同じ復興住宅に住む方がドライバーになるので信頼感、満足度が高い、とのことでした。



【手前にシェアリングカーと後方に蓄電可能なトラック】



【吉野町復興公営住宅】



【吉野カーシェア会の皆さま】



【吉澤代表理事による説明】

■終わりに

2011年に吉澤代表理事が石巻に届けた1台の車の共有（シェアリング）から始まった活動は、いくつもの仮設団地・復興公営住宅に広がり、移動課題について解決の一端を担うことになると共に、移動（外出）することを通じて新たなコミュニティの活性化へと繋がっています。また、カーシェアリングを通して利用する地域の人々が自助・共助（助け合い）を基軸とした、コミュニティ・カーシェアの目的としている「支え合う地域づくり」が実践できていると感じました。今後の展開として、「中山間エリアでの実践（北上・雄勝地区での実証実験）」「各カーシェア会の自立化」「持続可能な運営体制」など、更なる発展に対して今後も注目していきたいと思えます。